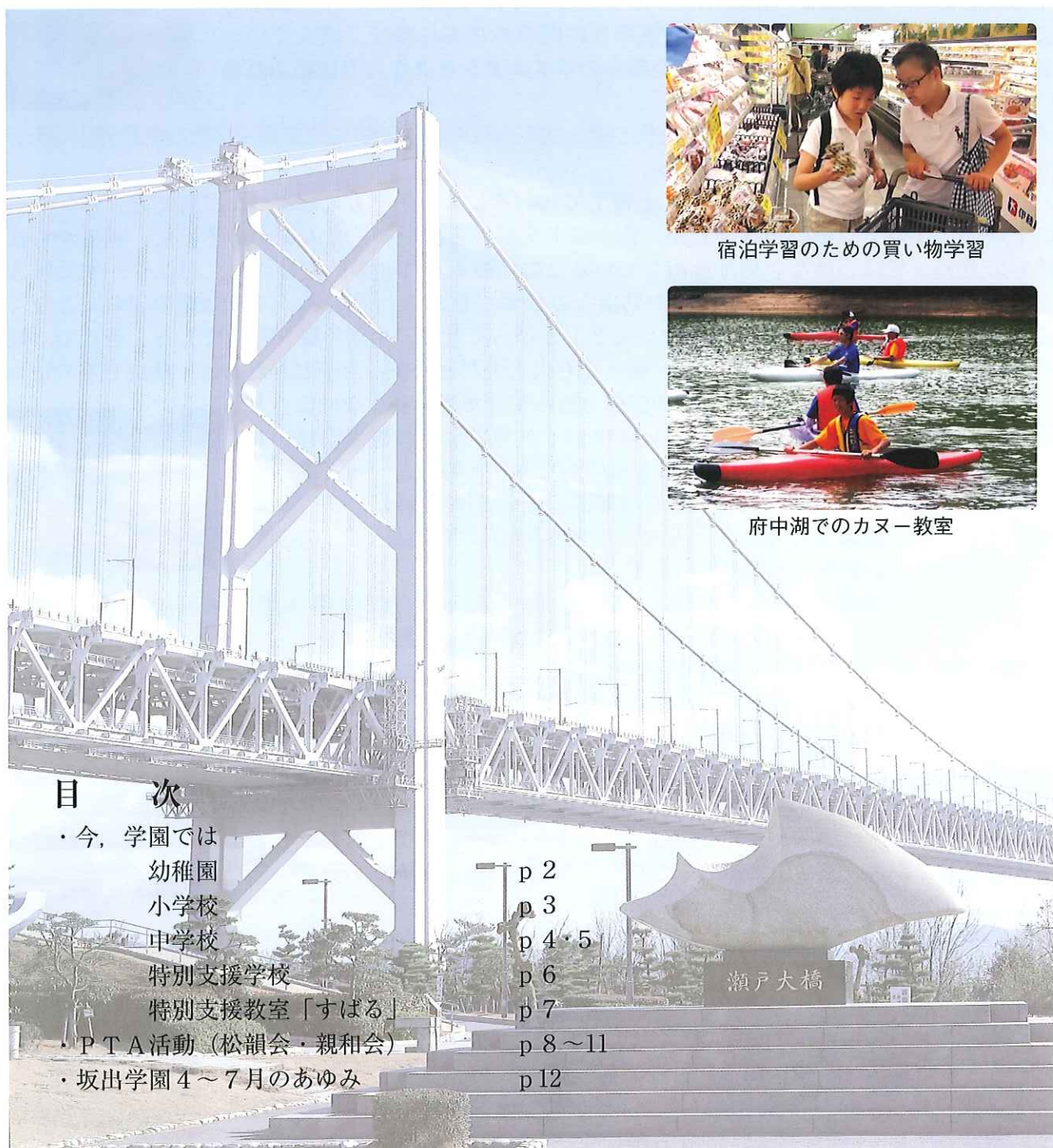


香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第42号

2012.7



宿泊学習のための買い物学習



府中湖でのカヌー教室

目次

- ・今、学園では
 - 幼稚園 p 2
 - 小学校 p 3
 - 中学校 p 4・5
 - 特別支援学校 p 6
 - 特別支援教室「すばる」 p 7
- ・PTA活動 (松韻会・親和会) p 8~11
- ・坂出学園 4~7月のあゆみ p 12



いろいろな生き物にふれて

附属幼稚園の園庭は狭いものの、いろいろな生き物と出合える魅力溢れる場所となっています。今年度も子どもたちは、いろいろな生き物とふれ合う中で、感動したり、驚いたり、美しさや不思議さに気づいたり、発見を楽しんだり、心動かされる体験を積み重ねています。

ウメエダシャク ～3歳児黄組～

手で捕まえらるる程によろよると飛ぶ様子から、園では別名『よろよろ蝶』と呼んで親しんでいるウメエダシャクは、子どもたちに大人気です。捕まえることができる、虫網と虫かごを手に、「先生、見て～」と得意そうな笑顔で見せにきます。虫かごから取り出そうとするとすぐには飛んでいかず、腕の方まで歩いてくることを喜んだり、大事そうに両手のひらに乗せ「飛んでいいよ」と声をかけたり、ゆっくりとした動きのウメエダシャクならではのふれ合いを、教師と一緒に楽しんでいます。



ツマグロヒョウモン ～4歳児赤組～

「先生！大きな毛虫がいるよ～！」と慌てて知らせにきた子どもたちについて行くと、パンジーに黒い体にオレンジ色の模様をした、体中にトゲがいっぱいのイモムシがいました。見るからに絶対にさわってはいけない信号を出しているこのイモムシですが、実はこれ、パンジーが大好きな『ツマグロヒョウモン』という蝶の幼虫なのです。そこで、「実はね、これは蝶の赤ちゃんなんだよ」と伝えると、「え～！毛虫でない？」とびっくりし、半信半疑な様子でした。そこで、観察ケースの中で飼うことにしました。触っても大丈夫だと分かった子どもたちは、幼虫を手のひらにのせてシリコンのようなトゲトゲの感触を触って「本当に痛くないよ」と楽しんだり、今までに見たことがない背中がトゲ状で金色の斑点模様をしたさなぎに変態すると、「どんな蝶になるのかなあ」と毎日じ～っと眺めたりしていました。そして、先日いよいよ蝶に。その羽の模様は、まさしくヒョウでした！教師もそんな子どもたちの興味関心に寄り添って、驚きや感動を共感していきたいと考えています。



モンシロチョウ・ダンゴムシ・ミミズ (カメのエサ) ～5歳児青組～

『蝶が集まる幼稚園に…』と願いを込めて植えたキャベツに、100匹以上のアオムシが見つかりました。1つの観察ケースの中にこんなにもたくさんアオムシが集まると、キャベツの葉は数時間できれいに食べ尽くされ、大量のフンが山のように残り、それだけで子どもたちは100匹のパワーに魅了されていました。アオムシがさなぎになると、その不思議さと嬉しさからそ～っとツンツンして、「先生、緑色のさなぎは柔らかいけど、茶色のさなぎは固いよ」と違いを感じたり、緑色のさなぎは触るとキュキュッと体を左右に振る様子に命を感じて喜んだりしています。そんな好奇心も大切にしながら、生命の大切さを感じられるよう、そっとかかわっていきたいと思います。

その他にもいろいろな生き物を飼っています。ダンゴムシのケースの中では、たくさんの赤ちゃんが生まれ、「ダンゴムシの赤ちゃん初めて見たよ。かわいいね～」と、子どもたちは小さな小さな生き物にも嬉しい命を感じています。また、クラスにカメがやってきた日には、子どもたちと「カメのエサは何だろう？」と悩み、一緒に図鑑を広げて調べました。「ミミズ」と書いてあることを見つけ、早速、花壇を掘ってミミズを捕まえ、カメに食べさせています。命はこうして繋がっていくことも感じている子どもたちです。





研究主題 (仮)

「思考力」を育成するユニバーサルデザインの授業づくり

本校では、昨年度より、特別支援教育の知見を手がかりに一人一人の「思考力」の伸びを保障する授業づくりを追究してきました。その研究成果を受け、本年度もユニバーサルデザインの授業づくりを進めています。

思考は、「考えてみたい」という意欲やそれまでの経験、思考の材料となる知識等に支えられています。まず、そのような思考を支える要素を明らかにします。そして、単元あるいは本時の学習過程において、その要素に対して特別支援教育の知見を手がかりに働きかけを行い、思考活動を遂行させていくようにします。これが、本年度、本校が追究する「ユニバーサルデザインの授業づくり」の構想です。

■■■ 研究授業 ■■■

1年 算数科「かずをわけてみよう — 『いくつといくつ』 —」

しらかわ あきひろ
白川 章弘

本単元では、これまで一つのまとまりとしてとらえていた数の見方を広げ、「一つの数をほかの数の和や差としてとらえる力」の育成を目指しています。本「思考力」を育成するためには、それを支える要素として「経験の想起」「知識・技能」が必要です。1年生のこの時期は、教師から提示された問題を解くのが初めてです。そのため、経験を想起し、問題場면을正しく把握することができず、その後の思考が進まないことがあります。また、「10は7と□」のように数の合成・分解についてとらえる際は、まず基となる10という数を半具体物に置き換えて並べ、10と7を1対1対応させていきます。そこでは、ものの個数を半具体物に置き換えて1対1対応をつけるという「知識・技能」がなければ、「いくつ違う」「あといくつ」がとらえられないことがあります。



【問題場面の把握】

そこで本時では、「経験を想起」させるために、まず9このボールを提示し、二つのブラックボックスに分けて入れる様子を見せました。その際、いくつずつに分けたのかが分からないようにし、「何が分かれば、二つのボックスに入っているボールの数が分かりそうですか。」と問いかけました。すると子どもは、どちらか一方のボックスに入っているボールの数が分かればよいことに気付いていきました（経験を想起させるUD）。このように、「あるものを二つに分け、それぞれの個数を数える」経験を想起させることで、問題場면을正しく把握していきました。

9の分け方をすべて見つけた後、一方のボックスに入っているボールの数を数字で示し、もう一方のボックスに入っているボールの数を問いました。その際、既習事項である「知識・技能」を活用しながら思考させるために、板書に整理した9の分け方を隠すようにしました。すると、板書にある9の分け方を基に答えを導き出していた子どもは、戸惑いを見せました。そこで、「9の分け方を見なくてもボックスに入っているボールの数を確かめる方法はないですか。」と問いかけました。すると子どもは、前時でも使っていた、数図ブロックがぴったり入るシートを使えばよいことに気付いていきました。そして、9を数量としてイメージし、一方の数と1対1対応をつけながら、数の大きさを比べることができました（ワーキングメモリの負担を軽減するUD）。



【シートで違いを見る】

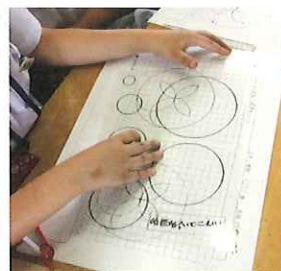
3年 算数科「まるい形について調べよう — 『円と球』 —」

しみず あきひと
清水 顕人

ビー玉やボール、お皿など、子どもたちのまわりには丸い形がたくさんあります。3年生では、これまで丸い形と呼んでいたものを円や球としてとらえなおし、円や球のひみつを探っていました。

授業では、「カエル魔人」というキャラクターが登場します。ちょっと不気味で、でもどこか憎めないこの「カエル魔人」の顔は、全てコンパスを使ってかけるのです。かけそうだと予想する子どももいれば、かけそうにないと困った顔をする子どももいました。魔人の目や顔の輪郭は円だとわかります。しかし、鼻やひげはどうかせばよいのでしょうか。ここでは、円には見えにくい線を、円の一部であるとしてとらえられるようになる必要があります。そこで、子どもたち一人ひとりに透明のシートをわたしました。このシートには、様々な大きさの円がかかれています。子どもたちは、魔人の顔にこのシートを重ね合わせ、円を見つけていきました（重なり合った形の中から円を見つけれられるようにする道具）。魔人の顔の中から円の一部を見つけれれば、その円の中心を探し出すことができます。子どもたちは円の中心を探し出して、コンパスを使って魔人の顔をかいていきました。その際、コンパスで円をかくことを通して、直径は半径の2倍であるということや、直径は中心を通るといった円の秘密を実感することができました。

最後に色鉛筆で好きな色をつければ、自分だけの「カエル魔人」が完成です。「やったー、できたー。」という声があちこちから聞こえてきました。「もっといろいろかきたい!」という声も多くあがり、二人目のカエル魔人をかく子どももいました。この授業の後、子どもたちのノートや自由帳には、コンパスを使ってかいた楽しい絵がたくさん広がっていきました。



【透明シートで円を探す】



【カエル魔人】

6月1日（金） 研究発表会 県内外から600名参加

「学ぶこと」と「生きること」の統合

—かかわり合う中で、自己の学びをつむぐ—

6月1日（金）、平成24年度附属坂出中学校教育研究発表会が、晴天のもと盛大に行われました。

当日は、県内外の小・中・高・大学および教育関係機関などより600名を超える参会者をお迎えし、本校の研究実践をご覧いただくとともに、全国にその意義と歩みを発信することができました。

今回の研究発表会では、「学ぶこと」と「生きること」を統合すべく、生徒個々の学びの特性に注目し、学習者自身にとっての学びの意味や価値を実感させるための対話と内省の在り方、そのための教師のかかわり方に焦点をあてました。また、探究的な学び方を身に付けさせるための総合学習である「シャトル学習」や「CAN」を核とするカリキュラム構想についても提案しました。

シンポジウム

4名の先生方をお招きし、「新しい時代の授業づくり」のテーマのもと、それぞれの研究の立場からご意見をいただきました。

松村暢隆先生（関西大学文学部教授）からは、認知的個性を活用し学習に活かしていく「個性を生かす学び」について、石井英真先生（京都大学大学院教育学研究科准教授）からは、「教科の本質に迫る教科する授業の創造」たる「真正の学び」について、山本茂喜先生（香川大学教育学部教授）からは、交流の中で協同で問題を解決し、自分の考えを再構成し、創造する「質の高い対話」について、伊藤裕康先生（香川大学教育学部教授 本校校長）からは、当事者性を持たせ、アイデンティティを確立する「物語り」としての授業についてお話いただきました。今後も本校の研究を自信をもって進めていける、大きな力を与えてくださいました。



シャトル学習・CAN

昨年度までも「シャトル学習」は、総合学習「CAN」における探究学習に必要なスキルを異学年合同で学ぶ場として実施してきました。今回の研究では、各教科が開設する講座内容を「基礎編」と「実践編」に分けることで、探究の仕方をよりスモールステップで確実に習得できるよう工夫し、さらに「基礎編」と「実践編」の間に「特設講座」を設け、16の基本スキルから自分に必要な三つのスキルを選択して学び、「実践編」や総合学習「CAN」に活かすことができるように改善しました。当日は「講座実践編」「特設講座」及びCANの「AL会議」を公開しました。



【AL会議】



【特設講座 グラフの見せ方】



【特設講座 情報の分析と分類】



【実践編 漫画で語る若者のすべて】



【実践編 今日から君はサイエンサー】



【実践編 作家の時間】

教科・学校保健

学ぶ意欲が向上するためには、生徒が「今、学んでいることの意味や価値」を実感することが必要であり、自身の体験や既存の認識と新たに学んだ知識や情報とを関連づけながら再構成していく過程が重要であると考えました。そこで、「対話」と「内省」に着目した授業作りに取り組みました。当日は各教科と学校保健において、具体的な単元構築および授業実践を提案しました。



【学校保健】



【音楽】



【数学】



【保健体育】



【技術・家庭】



【外国語】

講演

角屋重樹先生（国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部部長）に「真の学力向上と問題解決過程」という演題でご講演いただきました。

真の学力を「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の能力の育成」「学習意欲の向上」の三つの観点から話されました。また、問題解決過程とは何かについて、実践例を交えてご紹介くださりました。



研究発表会を終えて…

各教科の研究協議会やアンケートでは、参観者の方々から本校の研究実践について多くの賛同の声が寄せられました。また、生徒たちが自ら対話し、内省する姿にも高い評価をいただきました。

これも本校生徒一人ひとりの頑張り、各校園の諸先生方、そして保護者の皆様方のご理解があったことと深く感謝し、今後も本校の研究実践を全国に発信していきたいと思っております。

小学校との交流学習が 脈々と続いています

特別支援学校と小学校との交流は昭和55年度から継続されており、合同運動会では、交流した学年の児童だけでなく、以前交流した上級生の児童生徒からの「〇〇さん、がんばれ！」という応援の言葉や「元気だった？去年より大きくなったね」という温かい声かけが交わされています。

また、保護者の方からも「自然な交流がされていてほのぼのとします」などの感想が寄せられています。

本校の児童や小中学校の児童生徒たちが社会に出て、様々な人と出会ったとき、穏やかな気持ちで共に生きることができると嬉しいと思います。

1 事前学習

小学部主事が小学校に出向き、特別支援学校の子どもたちの生活等について説明する場をもちました。質問タイムでは具体的な疑問がたくさん出て、「なかよくなりたいたい！」という気持ちが伝わってきました。



特別支援学校の友だちとなかよくなるには…

2 「なかよしカード」と「ビデオレター」の交換

お互いを理解し合うために、自己紹介の「なかよしカード」とメッセージ入りの「ビデオレター」を作成し、交換しました。

交換し、事前に見合うことによって「グループの友だちは誰だろう」「好きなことが同じだ」「早く遊びたいな」という期待感をもって臨むことができました。



小学校の友だちからビデオレターが届いたよ！
ぼくのグループの友だちはだれ？

3 交流学習当日

①対面式

②全体活動

「みんなであたおう」

「あいさつ」

「なかよしゲーム」(玉入れ, サーキット)

「みんなでおどろう」

③グループ活動

グループ活動では、小学校の友だちと一緒に絵カードを選んだり、「〇〇しよう」と誘い合ったりして、バドミントン、サッカー、ブランコ、自転車、絵、パソコン等の活動をし、楽しい一時を過ごすことができました。



歌のお兄さんに合わせて、
「肩と肩と肩と…」
楽しいコミュニケーション



赤、白、青、3チームに分かれて、
「なかよし玉入れ」楽しいゲーム



運動会でも恒例の、輪になって踊る
「みんなでおどろう」楽しいダンス

これからも、お互いを理解し合える交流が続いていき、同じ社会の中で一緒に生きていくことができると願ってやみません。

特別支援教室「すばる」の研修事業について

特別支援教室「すばる」では、研修事業の一環として県教育委員会派遣の内地留学生と香川大学大学院特別支援教育コーディネーター専修生を受け入れ、個別指導実習を行っています。

県教育委員会派遣の内地留学生の受け入れは、平成17年度より始まりました。県義務教育課と県特別支援課から毎年2～3名の現職の先生が派遣され、本教室で1年間の研修を受けています。研修内容は本教室の学習指導事業の一環である個別学習指導が中心となっており、每期2～3名の子どもの担当し、週1回60分程度の個別指導を行っています。個別学習指導の研修では、子どものアセスメント・保護者面談・個別の指導計画の作成・指導教材の作成・指導支援方法・評価について、本教室のスタッフからの助言や文献からの情報などを参考に、個のニーズに応じた指導と特性を生かした支援方法のあり方について学んでいます。また、週に2回それぞれの個別学習指導担当児の事例検討会を開いています。指導の進捗状況や子どもの様子などを報告し、指導の改善点や教材の工夫について検討するとともに、多くの事例に触れることで、本教室に通級する子どもの実態や特性についての理解を深めています。個別学習指導を通して子ども一人ひとりにじっくりとかわかすることで、より効果的な指導方法を探求することができており、WISC-Ⅲなどの心理検査の結果からみえてくる認知特性を指導に生かしたり、近年ではiPadをはじめとするICT機器を個別学習指導に活用し、子どもたちの興味関心を引き出すような教材作りを工夫したりしています。



さらに、月に2回ほど本教室の室長である香川大学教育学部特別支援教育講座の恵羅先生より、講義形式で特別支援教育に関わる論文を紹介していただいています。多角的なアセスメントや効果的な指導支援に役立つ専門的な情報を得られる機会となっており、内地留学生の知識技能と研修意欲の向上につながっています。

香川大学大学院特別支援教育コーディネーター専修については、平成20年度の開設以来、本教室では年間を通して実習の場を提供しています。特別支援教育コーディネーター専修は、現職教員を対象とした1年制の大学院で、専修生は特別支援教育コーディネーターの養成に特化した教育プログラムを受けています。今年度、本教室では5名の専修生を受け入れ、指導実習を行っています。本教室での指導実習では、年間2名の子どもの担当し、週1回の個別学習指導を行います。専修生は、香川大学教育学部特別支援教育講座の恵羅先生と坂井先生の指導のもと、内地留学生と同様に担当児のアセスメントから指導・評価までを行っています。年度末に開催される修士論文発表会では、本教室での個別指導について報告されるケースもあり、本教室での実践が研究としてのまとめりをもつことができるようになりつつあります。



特別支援教室「すばる」では以上のような研修事業を進めており、特別支援教育に関する専門的な知識・技能を身に付けた教員が学校現場に一人でも多く増えることを目指しています。本教室で実践力を培った先生方のご活躍により、香川県の特別支援教育がさらに充実し発展していくことを願っています。

く増えることを目指しています。本教室で実践力を培った先生方のご活躍により、香川県の特別支援教育がさらに充実し発展していくことを願っています。

松韻会だより

6月2日、東京ドームホテルにおいて全国附属PTA連合会の総会と、創立60周年記念式典が行われました。記念式典において、多田羅尚登前松韻会会長が、文部科学大臣表彰を受賞されました。大変名誉ある表彰で、坂出学園としてはおそらく初めての快挙ではないかと言われています。心からお慶びを申し上げますと共に、現役松韻会の私たちが更なる精進を重ねていきたいと思っております。



幼稚園より

「命のお話」

毎年、年長になると、親子で「命のお話」を助産師さんからお聞きします。「赤ちゃんはどうやって産まれてくるの?」「どこから産まれてくるの?」というような子どもたちの不思議や疑問について、分かりやすく楽しい劇も交えて説明していただきました。

その中で、「あなたが産まれて来てくれてお母さんにとっては嬉しかったのよ」「たくさんの中から、あなたが産まれてきたんだよ」と子どもたちに言ってあげ、「あなたは、かけがえのない命をもって産まれてきた」ということを伝えていくことがとても大切だという話も伺いました。

情報が溢れている今の時代、子どもたちが疑問に思って聞いてきた時には、正しい知識を教えることも親の役目だと思えました。良い機会を親子で与えて頂いたと思います。

大丈夫かな?
赤ちゃん、無事に産まれてきて!



赤ちゃんが産まれる疑似場面を見て

そっと抱いてね。



本物の赤ちゃんの大きさと重さの人形を抱いて

小学校より

5月19日、恒例の1年生歓迎ウエルカムパーティーが行われました。1年生は35人学級となり参加人数が心配されましたが、ほぼ全員の保護者が参加しました。

今年は附属小学校〇×クイズや、保護者綱引きなど、新しいゲームを取り入れてみました。

〇×クイズでは、最新の小学校のうんちく満載でしたが、保護者よりも1年生たちが元気に正解を連発していました。

保護者綱引きでは、最初はおしとやかに綱を握ったお母さんたちでしたが、子どもたちの声援に後押しされて、髪を振り乱しての本気モードに突入しました。お父さん方も必死で綱を引きました。

終わってみれば、西組と東組の保護者の仲間意識ができたような気がしました。また、子供たちにとって、慣れ始めた学校で親が元気に活動する姿を見ると、さらに安心して学校に溶け込んでくれるでしょう。

クラス懇談では、充実した先生との情報交換の時間が持てました。手伝ってくれた常任委員さんもありありがとうございました。

今後とも、絆を育む努力を共に実践していきましょう。





100周年記念事業実行委員長 神余智夫

昨年から創立100周年実行委員会を立ち上げ、事業企画や寄付金の募集などを行ってきました。

そして、記念事業スクールデコレーションを実施しました。マスコミにも取り上げられ大学の先生方や附属教員OBの先生方にも好評



価でした。100年間支えてくれた方々への感謝、子供たちの夢、保護者間の絆、保護者・児童・先生方と共に附属坂学園を大切に思う気持ちなど、様々なメッセージがリボンにのせて広く発信されました。そして、「感謝」と「絆」の赤いリボンから、次の100年の附属坂学園の輝かしい活動がスタートすると考えます。製作に携わってくれた多くの皆様に、厚く御礼申し上げます。

スクールデコレーション担当部長
小学校役員代表 植田博司

小学校役員 石井政之・西条仁・滝上啓介
内田珠世・杉野忠伸

創立100周年おめでとうございます。また、スクーデコレーション事業に際し、たくさんの保護者の皆さまにご協力いただきありがとうございます。小学校役員を代表してお礼を申し上げます。このリボンが、「これまでの100年の歴史への感謝の標」であり「これからの新たな門出へのエール」であるとともに、児童・先生・保護者等の絆をさらに強く結びつける要であり続けることを期待しています。



スクールデコレーション製作リーダー
保護者代表 服部靖代

心配していたお天気は快晴！一生懸命の努力は運も味方になりました。航空写真の時間、皆の心が一つになった瞬間、苦労も疲労も、笑顔と歓喜で帳消しになりました。百年間という歴史、伝統を守り抜く精神に支えられ、あの大きなリボンの制作に携われた事に感謝しております。皆の想いが込められたリボンは、校舎の上で神々しく、生命力を感じるほどに、輝いていましたね！皆様、本当に有り難うございました。



こうして大きなリボンを作っていました①



2月中旬 計画検討

具体的に何をすればいいか案を出しながら絞っていきました。不安を抱えながらの製作開始です。この時、寒くて目の前にはストーブがありました。



4月下旬 リボン土台の製作

多くのお父さんの協力を得て土台作りを行いました。リボンの大きさが想像できず、こんなに大きくていいのかなあ〜と首をひねりながらの作業でした。



5月上旬 土台にリボンを取付

多くのお母さん方には大量の布地にアイロンをかけて裏地を取付、リボンへと加工して頂きました。これを、土台に取り付けていきます。とにかく時間と人手が必要な作業が長々と続きます。

■松浦山紀子さん（5年保護者）

附属坂出創立100周年おめでとうございませう。このような大きな節目のイベントに参加できて光栄です。大変な作業もありましたが無事完成でき、子供達の心の中に良い思い出として残ったのではないのでしょうか。皆様本当にお疲れ様でした。

■三保登茂さん（6年保護者）

4月になってから本格的に動き始めたスクールデコレーションですが、参加当初はリボンの大きさもイメージできず、すべてが手探りだったように思います。ですが、実際に布を使った作業が始まると、お手伝いしてくださる保護者の方も段々増えていき、おしゃべりしながらの作業は毎回とても楽しかったです。予想以上にたくさんの方の保護者の方がボランティアに自主的に参加してくださったことで、附属坂出学園のわ（和・輪）を感じました。親子でこの記念すべき活動に参加できたことを改めて嬉しく思っています。ご協力くださった先生方や保護者の皆様にご感謝いたします。

■松浦恵子さん（2年保護者）

スクールデコレーションの作業に参加して、本当に有意義な時間を過ごす事が出来ました。最初、大量の布と大きな木の枠を見つけた時の想像が出来ませんでした。でも、服部さんの丁寧な指導の下、あれこれ試したり失敗したりするうちに、想像のものが形になっていくのを実感しました。当日、実際組み上がった大きなリボンを見てすごく感動しました。懸命に作業を支えたPTA役員のみなさんを始めとする父兄のみなさんの、子ども達への温かい気持ちだと思います。

■太田賢一さん（6年保護者）

創立100周年の記念事業のひとつとして校舎にリボンを掛けるというスクールデコレーションをする。「へえ～そんなことするのかあ、大変そうだなあ。」それが私の最初の感想です。そんな私が多くのお父さん方と一緒にリボンの台座を作成し出来上がった台座を校舎屋上に運び、組み立てるなんていうことをするとは思っていませんでした。一回目の作業に顔を出したら、何だか最後まで見届けたくなくなってしまったところでしょうか。撮影当日はお天気も良く、最高の写真が撮れたのではないかと思います。実は私も写真の中に写っています。リボンの裏側で、風で飛ばないように布の端っこを押さえていたからです。見えないって・・・そうですね。でも私は、その写真を見ればそのことを思い出すのではないかと考えています。私は製作作業の一部にしか加わっていませんが計画段階から試行錯誤を重ねながら段取りされた役員の方々にはさぞ御苦労されたことと思います。見

童はもちろん保護者の中にも私のように感動した方がいたと思います。良い経験をさせていただき、ありがとうございました。

■吉田亜紀子さん（3年保護者）

創立100周年おめでとうございませう。白い校舎に真っ赤な大きなリボンやたくさんの風船、晴天からも祝福してくれているかのような虹、子ども達も帰宅後「リボンや風船すこかったね！」と大喜び。きっと子ども達の思い出の1ページに深く刻まれたことでしょう。このような素晴らしい行事を行っていただき、先生、実行委員の皆様には深く感謝致しております。さらなる附属坂出小学校の発展と子ども達の健やかな成長をお祈り致します。

■梶正子さん（5年保護者）

3人もお世話になってるから、お手伝いさせてもらおうと、参加しました。始めはイメージが湧かなくて、ひたすら言われた事を、ピーチクパーチクお話ししながら楽しんでましたが、思った以上に大変な作業ややり直し、追加作業に追い詰められました。でもやっぱり「母は強し」です。諦めません。父達もそれにしっかり答えて下さいます。だからこそあんな立派な物ができたと思います。良い経験体験をさせて頂きました。ありがとうございました。

■高木仁美さん（2年保護者）

創立100周年の航空写真で学校をデコレーションしようと計画し何度も話し合いを重ね校舎にリボンをかける事になりました。作業中にはいろいろな保護者の方と交流することができ絆を深めながら、巨大な赤いリボンが出来あがりました。とても楽しく人生の中でとてもいい経験が出来ました。子供達の記憶の中にもずっと残って欲しいです。この記念事業に参加できた事に感謝したいです。ありがとうございました。

■岡田涼子さん（5年保護者）

100周年の事業のお手伝いを少しですがさせて頂きました。最初はどのようなデコレーションにするかと言う話し合いから始まり、大きな屋上からのリボンになり、土台を組み立てて立体的に、それが35度と言う傾斜が一番良く見えてまた、リボンの膨らみなど皆のすばらしい考えやこだわりが一つになり、あのような迫力あるものが出来上がったと思います。作業は布を買いに行く所からすべて手作業で行われました。学年を超えてお母さん方と一緒に作業をさせて頂きとても楽しかったです。風船のアイデアもすごいと思いました。風船を子供達が手伝った事で自分たちも参加したという気持ちが高まったと思います。当日は天気にも恵まれその姿が屋上から現れた時には大変感動しました。一つの物を皆で作る事は本当に素晴らしい

いと思いました。子供達にもお父さん、お母さんが一生懸命作ったリボンはずっと心に残る事だと思います。ありがとうございました。

■篠原山希子さん（2年保護者）

スクールデコレーション？校舎にリボンをかける？初めて聞いた時、この壮大な計画に一体どうなるのか想像もつきませんでした。皆さんがアイデアを出し合い、試行錯誤しながらの地道な作業。少しずつ形になっていき、最後には見事に青空に浮かんだ真っ赤なリボンと色とりどりの風船。何よりも保護者が協力しあって、頑張る姿を子供たちに見せる事が出来てよかったと思います。この様な貴重な機会に微力ながらお手伝いをさせて頂き、本当にありがとうございました。

■岩井益砂江さん（5年保護者）

100周年にふさわしい、あー！と驚く記念写真になったと思います。リボンの仕上がりを見たときは感激しました。保護者の協力、人と人のつながりの大切さをあらためて感じました。また、当日、風船やリボンを見る子供達の素直な綺麗な目を見て、とてもうれしくなりました。

■三好秀紀さん（3年保護者）

創立100周年、おめでとうございませう。卒業された生徒のみなさんや教鞭を取られた先生方、そして附属坂出小学校に携わられた方々、また生徒を優しく包み育んで頂いた校舎や運動場、遊具など全てのものに感謝を込めて、この大きなリボンが届けばとても満足です。これから、更に発展していくことをお祈り致します。スクールデコレーションに参加出来たことに感謝致します。ありがとうございました。

■木村真弥子さん（1年保護者）

「感動!!きれい!!感謝!!」時間が経った今でも5月30日に校庭で子ども達や先生方と一緒に感じた気持ちを思い出します。会長をはじめスクールデコレーションや100周年に関わるコアスタッフの皆様が多くの時間を注いでくださり、熱い想いを持って取り組んでくださった結晶だと思います。メモリアルyearに入学出来た幸せを感じながら、1年生を代表して心より感謝申し上げます。また4月より新生活をスタートさせた1年生の保護者の皆様にも、お忙しい中度々お手伝いをして頂き本当にありがとうございました。毎回笑顔の絶えない楽しい作業で、異学年の保護者の皆様とも、より一層絆を深める事が出来ました。まだまだ続く100周年のイベントを子ども達と一緒に、皆さんで心をつなげて楽しんでいきたいです。

こうして大きなリボンを作っていました②



航空写真撮影3日前 運び込み・仮組

大きなリボンの部品が16ヶ。北校舎から南校舎の屋上に運び込み架台に取付、ようやく完成の姿が少し見えました。雨が降ると祈るばかりです。



撮影まであと2時間 リボン組立

もう時間がありません。少し風はあるものの晴天です。とにかく完成を目指して全員で組み上げ、細部の微妙な膨らみを調整していきます。



撮影まで残り30分 まもなく完成

屋上からリボンを2本垂らして校舎の窓にはたくさんの風船が付けられました。時間がある限りリボンの完成度を上げていきます。そして、完成です。

中学校より.....

6月1日研究大会の前、5月26日（土）に、土曜メンテナンスとして、PTA、中学生、先生方で、中学校の池掃除を行いました。

急な呼びかけにもかかわらず、多くの保護者に参加していただけました。

自主的に前日に手伝ってくれた生徒や、当日参加してくれた生徒が何人もいて、改めて「いい学校だなあ！」と感ずることが出来ました。



すっかりきれいになった池で、研究大会本番を迎えることが出来ました。

6月9日（土）のオープンスクール時の、親子セミナーにも多数の保護者に参加いただけました。今回は、学級懇談会の時間を長めにとっていただき、保護者間の交流を深めることが出来ました。

ボランティアの皆さま、本当にありがとうございました。

特別支援学校より.....

平成24年度親和会 活動開始！「春季運動会」



平成24年度が始まり、親和会最初の行事である総会が、4月22日（日）に行われました。各運営部に分かれての部会は、学年やクラスが違うため、自己紹介をしたり、それぞれが受け持つ今年度の行事を話し合ったりして、とても活気のあるものとなりました。



そして、わが校2大行事の一つである春季運動会が、5月13日（日）快晴の中、地域の方々、卒業生、保護者、附属の生徒の皆さんを交えて、盛大に行われました。

新学期が始まったばかりの新しい環境に、子どもたちは戸惑いながらも、一生懸命練習に取り組んだことと思います。その成果は、運動会当日、見事に披露されました。素晴らしい演技や競技、係の仕事に取り組む姿勢には、驚きと感動を覚えました。

親和会も行事部と運動部を中心に、ふれあいバザーやお弁当の手配など、準備段階から裏方として参加をしました。中心となって動いていただいた保護者の皆様、駐車場の係を快く引き受けてくださったお父さん方、ありがとうございました。

24年度はスタートしたばかりです。役員を中心に、明るく楽しくパワフルに、1年間、活動していこうと思っておりますので、よろしくお願いいたします！！



修学旅行

3年生は、4月11日(水)～15日(日)まで、4泊5日の修学旅行に行ってきました。

屋久島から、知覧、熊本、福岡へと移って行きました。屋久島では、世界遺産にも指定されている豊かな自然を満喫しました。



知覧では、戦争の悲惨さ、命の尊さ、平和の大切さをあらためて感じました。

阿蘇での体験学習では、酪農体験、パラグライダー、乗馬、カヌーなどを経験しました。

親子セミナー

6月9日(土)、香川大学工学研究院、教授 寺林優先生をお招きし、「フィールドワーク 好き？嫌い？」の演題で、講演していただきました。先生は、海外での調査体験(フィールドワーク)を提示しながら、分かりやすく語っていただきました。

地球の年齢や地球ができたときの温度の調べ方は、意外な方法でした。

本当に貴重な情報をいただくことができました。



中学校

日食の観察会

2012年5月21日、日本国内では25年ぶりとなる金環日食(坂出では部分日食)が、観察できました。夜半より降り始めた雨に心配していましたが、観察会



開催時刻の7時頃になると狙いすましたかのように、薄雲の間から欠けた太陽が顔を見せました。小学校の校庭に集まった300名を超える児童・教職員・保護者から歓声が上がりました。参加者は目の保護のために遮光プレートを手で、3人一組交代で、世紀の天体ショーを観察しました。遮光プレートを通すと、太陽が三日月型に欠けていく様子が手に取るように観察できました。また、木漏れ日や、手で作った格子を通して、体育館の扉に三日月型の太陽光が映し出されました。太陽が隠された分、周囲は薄暗く、気温も心なしか下がった気がしました。参加者の願いが通じたのか、7時半頃の最大食を超えても、薄曇りのまま終了時刻の7時45分まで観察できました。次回、香川県内(高松市内)でこれ程大きな日食(9割以上)が見られるのは83年後だそうです。早起して観察会に参加した甲斐がありました。

小学校

特別支援学校

地震火災避難訓練

「緊急地震速報、およそ40秒後に震度5程度の地震が来ます。」5月18日に、本年度導入された緊急地震速報装置を使って初めて地震火災避難訓練をしました。このアナウンスが流れたら、まず自分の身の安全を守ることが一番です。机の下に潜って身を隠し、防災ずきんをかぶって運動場へ避難しました。ハラハラドキドキしながらも、児童生徒全員が落ち着いて無事避難できました。



避難の様子を坂出市消防本部の消防士の方に見ていただき、避難の際の約束「お・は・し・も」がよく守れていたことをほめていただきました。職員も、非常持ち出し袋の点検や、保護者への緊急一斉メール配信などの確認ができ、有意義な訓練になりました。

いつ起こるか分からない地震災害に備えて、日頃から危機意識をもつことが大切であることを再認識しました。



幼稚園

<5月の子どもたち>

母の日の集い

“母の日の集い”に向けて、それぞれのクラスで「お母さんのこんなところが好き」と話し合っ活動を進めました。当日は、歌を披露したり、心のこもった手作りプレゼント(お母さんへのメッセージ付き)を渡したり、先生からの絵本の読み聞かせをおうちのの人に抱っこされて聞いたりしました。お母さんと子どもたちの心の通い合う一日となりました。



抱っこしてもらって



歌をきいてね



プレゼントどうぞ

いろいろカタツムリ

梅雨の時期になるとやってくるのがカタツムリ。見たり触ったりする中で、カタツムリに触れたり親しんだりしていく子どもたち。それぞれのクラスで、この時期ならではのカタツムリの製作を楽しみました。



黄組:セロファンのきらきら模様



赤組:うずまき模様挑戦!



青組:色鉛筆で素敵なデザイン

編集後記

今年の夏は、早々と台風の影響を受けましたが、雨もたくさん降ったおかげで、早明浦ダムの方は水位を保っているようです。子どもたちが楽しみにしている水泳学習も安心して行うことができます。

今年度は、附属坂出小学校が100周年ということで、記念事業実行委員会を中心に様々なイベントが企画されています。さかいで大橋まつり総踊り附属坂出学園連の参加等、ぜひ、坂出学園全体で盛り上げていきたいと考えています。

関係の皆様方、今後ともご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

発行年月日：2012年7月17日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

佐藤 美芽 (附属幼稚園)

宮野 真也 樽本 導和 (附属坂出小学校)

寺岡 英郎 氏家 徹也 (附属坂出中学校)

伊藤 宏美 尾崎 仁美 (附属特別支援学校)